

避難者受け入れ奮闘 町会ぐるみ

「支え合いお互い様」

葛飾区の施設「水元学び交流館」周辺の住民たちが、東日本大震災の避難者の受け入れに奮闘している。カレーやおにぎりを振る舞い、紙おむつの買い出しに走るお年寄りや、入浴を介助する女子高校生もいる。住民たちは「支え合うのはお互い様」と団結してサポートしている。
(黒川和久)

がんばろう!
～首都圏から

交流館に避難しているのは福島県のいわき市、浪江町、楢葉町の11世帯44人。幼児から80代のお年寄りまでおり、小中学生は6人いる。18日夜からレクリエーションホールで過ごしている。
住民たちが避難者の様子を知らしたのは19日朝。「朝ご飯を食べていない」という。コンビニにはおにぎりがなく、着の身着のままで所持金のない人もいた。区が弁当を準備しようとしても、食材不足で調達できなかった。
それを聞き、水元中央町会は「日本人として手伝おう」と団結し、夜には2、4、3個の



住民たちが持ち寄った支援物資の仕分けをする高校生やボランティア団体のメンバーたち。葛飾区南水元2丁目

おにぎりを振る舞った。水元飯塚町会は急きょ役員会を開いて翌20日夜、コメ15kgを炊いてカレーライスを作った。21日にはおにぎりやラーメンが提供された。

総合高校を卒業したばかりの芳賀しほりさん(18)は「少しでも元気に過ごせるように」と、避難してきたお年寄りの入浴介助もこなした。
住民たちは避難者が「一足」として使えるように、自転車を持ち寄って貸し出しも始めた。避難者は区から弁当が昼などに提供される一方で、支援物資をもとに調理室で自炊もしている。水元飯塚町会の大山安久会長(72)は「避難者たちが自立できるようにお手伝いしたい。住民の皆さんには支援の呼び掛けにこたえてもらい、言葉にならないぐらいいろい」と話している。

支援の輪は周辺の町会やボランティア団体にも広がった。必要な物を一覧にして周りの町会に配ると、コメ約300kg、トイレットペーパー約60本、しょうゆ約30本、タオルなど十分な支援物資が集まった。

22日には区社会福祉協議会の呼び掛けに応じた10あまりのボランティア団体と個人の約30人が、避難者への支援物資の仕分け作業をした。葛飾

22日には区社会福祉協議会の呼び掛けに

22日には区社会福祉協議会の呼び掛けに